

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもデイサービスみらくる		
○保護者評価実施期間	2026年1月17日		～ 2026年2月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数) 18人
○従業者評価実施期間	2026年1月17日		～ 2026年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者様が、療育活動や遊びを通して安心して楽しく過ごせる居場所となっている。	利用者様への言葉かけや対応は、敬意を払った肯定的表現を用い、笑顔で接している。	更に意欲的に療育を取り組めるように工夫を重ね、楽しく充実した遊びの提供に努める。また、新しいリズムトレーニングプログラム等の追加を検討している。
2	療育プログラムの目玉として、ビジョントレーニングがある。従来のものだけでなく、V-Trainingという最新の機器も使用し、見る力の向上を図ることが出来る。	効果を高めるため、利用者様の来所時には基本的に毎回取り組むようにしている。	利用者様が自発的・意欲的に取り組めるよう、方法の検討をしている。
3	研修やミーティングを通じて、日常的に支援力の向上を図り、連携して統一した対応が出来るようにしている。	研修やミーティングの内容を、実際のみらくるの利用者様に合わせた具体的な取り組みに発展させ、より実務的で分かり易くしている。	支援に関する分かり易いマニュアルの抜粋を作成・掲示する等し、より効果の高い支援を提供出来るようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者様のご家族様やごきょうだいの交流機会に乏しい。	発達障害等の理解を深めることに重きを置かず、ご家族様やごきょうだいの方も楽しめるという部分にフォーカスしたイベント、及びその告知が不足していると思われる。	長期計画の下で、理解のある方には協力を要請し、ご参加される方が楽しく笑顔になるようなイベントを検討していく。
2	別棟に多目的室を整備したが、利用者様が完全に自由に動き回れるほどの広さはないので、物足りない場合がある。また別棟のために、常時自由には多目的室を利用できない。	現在の身体活動・体幹トレーニングプログラムについて、別棟である部分を含め、多目的室の広さ等の事情に最適化されていないこと。	担当者の少ない一部の業務を職員全員で協力する体制を作り、業務効率を更に取り上げ、可能な限り早期に多目的室での運動に最適化された身体活動・体幹トレーニングプログラムを構築できるようにする。
3	お出かけや地域交流のバリエーションが不足している。	移動にも時間を要することから、支援時間内で行ける場所が限定的であること。また、ご協力いただける人や場所にも限りがあること。	安全でワクワクする体験の場作りを計画し、お出かけや地域交流のバリエーションに限界があろうとも、内容を工夫し楽しさを創造できるよう努める。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	子どもデイサービスみらくる						公表日	2026年2月28日		
						利用児童数	28			
								回収数	18	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	3						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16			2				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	1		4				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17			1				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18							
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18							
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18							
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18							
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18							
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16			2	体を動かすのが苦手なので、運動教室が	ありがとうございます。更に楽しく体幹を鍛えられるよう、新しいリズムトレーニングプログラム等の導入を検討しています。		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9		2	7				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18							
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18							
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13			5				
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	15	3						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	1		1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16			2				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	2		4	不参加のため知らない。 きょうだい向けのイベントなどは無いので、どちらとも言えないにしました。	ご家族様や利用者様ごきょうだい同士で、楽しく交流できる場を作れるように検討します。		
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15			3					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16			2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16			2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17			1	先生方を信用していますが、日本版DBSの運用の対象になりますか。	弊事業所は対象となります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17		1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	1			大満足です。いつも楽しく行かせてもらっています。ありがとうございます。	ありがとうございます。喜んで楽しく出来る療育プログラムを更に取り入れて行きます。ご希望があれば検討します。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子どもデイサービスみらくる		公表日		2026年2月25日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法的に適切。構造化して療育や遊びを行っており、利用定員最大の人数でも対応できる。トイレは1つしかないが、必要な場合は階下どんまいのトイレを借りたり、敷地内別棟のトイレを使用したりしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		常勤職員が急に病欠した場合等でも、管理者と他職員で相談し調整を行い高品質なサービス提供を維持している。場面ごとに立ち位置を変え、利用者様全員が常に見守られるように、職員同士連携出来ている。	より高度でより専門的な、個別的な支援に取り組みたく職員数を増やしたいという職員の声がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		室内の段差にも小さなスロープを設けたり、ドアの開閉部に注意表示をしたりし、安全面を強化している。外階段の利用が必須だが、前提として見守りの徹底、衝撃緩和マットも設置し万一にも備えている。	やはりどれだけ対策して万に備えても、外階段は危険だという職員の声は依然としてある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		みらくる敷地内に別棟で広い多目的室が出来たので、運動療育やリズムトレーニングの効果効率が向上し、利用者様がのびのび体を動かせる空間が増えた。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		職員同士で連携して空間作りをしており、利用者様を各々のニーズに合わせた場所に誘導して、一時的な個別の空間等でクールダウン等出来るようにしている。	大きな声や音が苦手な利用者様や、パニック状態の利用者様が利用できるような、クールダウン用の部屋を常設するのが理想だが、設備的に難しい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		支援前後のミーティングで課題共有・解決・振り返り等し、丁寧にPDCAサイクルを回しており、多くの職員が参加できている。	出勤日や勤務時間によってはミーティング内容の共有が遅れる職員もいるが、申し送りで対応できている。しかし、職員全員が更にタイムリーで分かり易い方法でこのサイクルに参画出来るのが理想。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ご家族様の意向を汲んで、より良い支援につながるように検討して業務改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		個別面談やミーティングで職員が意見を述べる機会があり、意見を把握して、知恵を出し合っ一丸となって業務改善に取り組んでいる。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者評価を行う場合、評価機関との連携および契約が必要となる。現在は行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		ミーティング時等に支援力向上のための小規模な内部研修を頻繁に行っている。また、外部研修に積極的に参加できるように勤務の配慮をしている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ご家族様のニーズを踏まえ、職員で話し合い支援プログラムを作成し、公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		利用者様とご家族様の思いやニーズを考慮した上で、利用者様の特性や日頃の様子を踏まえ、より良い支援となるよう計画を作成をしている。	利用者様本人のニーズとご家族様のニーズが異なるケースでの課題解決は難しいが、その調整を含めて出来るよう新任職員を育成出来ると良い。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員全員でこどもの将来を見据えて、最良の療育内容となるように考えている。5領域との関係性も含めた必要項目を適切に設定し、計画書を作成している。	内容の簡素化以外の方法で、より具体的に分かり易い計画書を作成できると良い。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別の療育ファイル前面の見え易い位置に計画書を貼付して、適宜確認しながら支援している。職員全員が、内容を共有し計画に沿っていると回答している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマル・インフォーマルに加え、必要に応じてビジョンアセスメントや太田ステージを実施している。	ビジョンアセスメントの際に、利用者様の特性によっては中々進まないことがある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各プログラムの担当グループごとに話し合い、その後に他のグループで出た意見についても情報を共有し、全体に活かせるよう工夫している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個々の利用者様ごとに内容を自由に選んで活動して頂いたり、事前に分析した興味を持てる活動を提供したり等し、工夫している。	下校時刻が遅くご利用時間が少し短くなる日も、利用者様とご家族様にご満足頂ける活動プログラムとするのが理想。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団活動に対して過敏な反応をする利用者様や利用者様同士の関係性、当日の心身の状況により、集団活動や個別活動を柔軟に実施している。	現状よりも更に充実した個別療育を提供したく職員数を増やしたいという職員の声がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		項6に同じ。特に、療育、支援内容及び各担当職員の動きを綿密に確認して連携している。また倫理綱領を唱和し士気を高めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		項6・項20に同じ。	法令改正により義務化される業務が年々増加しており稼働が増えている為、解決まで時間のかかる課題は取り組み時間の確保に工夫が必要になっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の個別の記録をプログラム毎に作成しており、支援計画の見直しや計画立案に活用し易くしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングを担当グループ毎に行い、その後共有しているが、必要箇所にマーキングし可読性を向上させる工夫をしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		利用者様が活動に興味を持てるよう、4つの基本活動をニーズに沿って組み合わせている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		利用者様の状態に応じて異なる複数の選択肢を利用者様ごとに用意し支援ツールと組み合わせることで、自己決定力の向上を促している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		一部重説に記載し、専用の記録用紙も作成し、職員・利用者様共に分かり易い体制を整えている。また、利用者様ごとに異なる関係機関については利用者様別に資料化し、参照しやすいよう配慮している。	密な連携を行う為には適宜働きかけが必要。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			下校予定表の提供をしてもらってはいるが、全ての学校と、現状以上にこどもの安全安心につながる連携をするためには自主的で強い働きかけが必要。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			情報提供を受けることはあるが、相互理解には至っていない部分がある。更に密な連携が必要。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修については項10に同じ。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			学校でのストレスを放デイ利用で緩和している利用者様もあり、交流は難しい現状がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		電話やメール、連絡帳を使って、日々の状況や課題を連絡している。ご家族様からもそれらのお話をし易くして頂けるよう丁寧な連絡に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			家族支援プログラムは基本として実施しているが、更に家族参加の研修等を企画し、学び合える場の提供を考える必要がある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧に説明をしている。説明に必要な項目のチェックリストを利用している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談支援をしていることを文書にてお伝えし、内容についても問わず広く門戸を開いている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		親の会は存在するが、多忙なご家庭も多く、ご参加されるご家庭が極めて少ない為、現在積極的に開催できていない。きょうだいの交流も含め、良い方法を検討中。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	重説等にも記載している通り、苦情対応窓口の周知をしており、万が一、苦情があれば迅速に対応する体制となっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	新規利用者様向けにHPをリニューアルしてWEB掲載している。事業所の予定や連絡は連絡帳や紙媒体で直接お渡ししている。	SNSは悪意のあるユーザーも含めた不特定多数に発信されるため、非常に扱いに繊細さを要するものであることから運用できていない。方法を検討中。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報の取り扱いについて、日々のミーティングで周知徹底しており、職員の個人情報に対する取り扱い意識が高い。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	開所以来、地域交流をプログラムに取り入れて活動している。	行事を地域に開くということは、不審者を招き入れるリスクやトラブルを呼び込む可能性が増えるということでもあるため、安全面から難しい現状もある。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルを配布し、訓練の際は全員が参加できるよう曜日を覚えて実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	事前に丁寧な聞き取りを実施し、個別に分かり易く記録している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	ご家族様からのアレルギーに関する聞き取り結果を資料化し事務所に掲示することで、確認を徹底している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	必要な安全管理に加え、日々職員10ヶ条を唱和して、職員の安全意識を高めている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット報告の情報をミーティングで共有し、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止委員会や研修会を開催し、虐待防止の意識を高めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	拘束の具体的場面を想定した研修やミーティングにより、周知徹底している。		